

十二月度月次祭・新穀感謝祭 理事長お話

「月次祭」ならびに「新穀感謝祭」、おめでとうございます。
初雪の便りが届き始め、木枯らしが身に染みる12月となりました。

今年も、世界救世教⑤之光教団の信徒である私共は、教主様のご教導にあずかり、明主様をご在世中の最後にお示しくくださった“神の子たるメシアの道”を、全てのみ教えの神髄と受け止めて歩ませていただいています。

そうした中で、私共は、“神の子たるメシアの道”の象徴としての「大光明」のご神体を全ての信徒家庭に奉斎させていただき道を賜り、また、「メシヤの御神」という真に尊き御名をもお受けさせていただきました。

私共は、今月23日の「御生誕祭」には、この上ない喜びと感謝をもって主神をお讃え申し上げ、明主様のご生誕を心からお祝い申し上げたいと存じます。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教所の〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、教主様のご教導を通して、“明主様の全く新しい救いの福音”に目覚めることができた、涙があふれるほどの喜びをご奉告くださいました。

〇〇さんは、ご奉告の最後に、本年の教主様ご巡教における「質疑応答」の次のお言葉について、ご自身の受け止めに語っておられました。

何のために主神は、明主様を通してみ教えを私たちにお与えくださっているのか、と考えますと、それは、み教えを通して、少しでも私たちの心を神様に向けさせ、天国に立ち返らせるためであると思います。なぜならば、神様の創造の目的は、私どもをご自身の子供とすることだからです。この目的を成し遂げるために、神様はすべてのものを用意してくださいました。み教えも同様であります。

〇〇さんは、このお言葉を通して、み教えを自分なりの受け止めで拝読してきたことを知り、心揺さぶられたこととお話してくださいました。

先月の「月次祭」でお伝えしましたように、私自身も、教主様のご教導を通して、み教えや浄霊について、私共をご自身の子供とするという主神の厳然たるご意志が込められていることを、初めて知るものとしていただきました。

ですから、私は、今日までにいただいてきた全てのみ教えや浄霊を、もう一度新しいみ教えとして、新しい浄霊としていただき直さなければならないと思わせ

ていただいた旨お伝えしましたが、本日の感謝奉告をお聞きし、さらにその思いを強くさせていただきました。

皆さま方はいかがでしょうか。

さて、①之光教団は、新たな年となる平成三十年の「教団方針」を発表致しました。

本日は、この「教団方針」の願いとするところが記された「まえがき」を、ご一緒に受け止めさせていただきたいと存じます。

この「まえがき」の前半部分には、次のように記されています。

「教団方針」まえがき—平成三十年の取り組みにあたって

私共は、『「教主様のお姿とお言葉に倣う」ことを徹底する』『①之光教団の本質は「布教宗団」である』という教団方針のもと、一人ひとりが全く新しい信仰をさせていただいています。

私共は、今も生きておられる明主様のみ教えを真に理解し、実践させていただくことを願い、み教えの神髄をお取り次ぎくださる教主様のご教導を唯一絶対無二の拠り所として「想念の革正」に努めさせていただき、「想念の御用」の大切な実践の場として、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」に取り組ませていただいています。

教主様は、「メシヤ降誕」「新しく生まれる」とのみ教えを、明主様がお示しくださった最も大切なこととして、今、私共にお伝えくださっています。ご自身の神様に対する「告白」として、お言葉をくださっています。

私共は、「メシヤ降誕」「新しく生まれる」ことを、明主様お一人のこととして済ますことはできません。真の主神の子・メシアとして新しくお生まれになった明主様が、私共の中におられます。教主様が、

「明主様が今、私どもの中で、“わたしを模範とするように、と訴えていらっしゃる」（新年ご挨拶 平成29年）

とご明示くださったことを、心から受け止めさせていただきたいと存じます。

明主様を模範とさせていただくということについては、教主補佐も次のように述べられています。

「明主様はご晩年に、『私の真似をしなさい』というようなことをおっしゃっていたらしいのですね。真似をする、ということは、簡単に言えば、『私になりなさい』『明主になりなさい』ということですよ。（中略）本当に畏れ多

いことのようなんだけど、我々も、『明主様のようにならせたい』
『あなたと同じところに行かせていただきます』と言わないといけないんです
よね」

(いつのめ教団／岡田真明様と海外研修生との懇談会 平成28年9月28日)

私共は、真の主神の子・メシアとして新しくお生まれになった明主様を模範
とするようにと、教主様からご教導いただいている「全く新しい信仰」を外し
て、世界救世教の信仰はない、そのように受け止めさせていただいています。

「教団方針」の冒頭には、このように記されています。

私は、この「教団方針」は、み教えの神髄である主神のご意志を誰よりも強く
求めておられる教主様のご教導にあずかる私共に対して、主神が明主様を通じて
お与えくださった、新たな年の「神の子たるメシアの道」であると、心から受け
止めさせていただきたいと思っています。

私共は、明主様が今も生きてお働きくださっていると信じて歩ませていただい
ておりますが、本当は、メシアとして新しくお生まれになった明主様の、ほんの
一端しか知らなかったのではないのでしょうか。

私は、明主様がご在世中の最後にお示しくださった、今、教主様がご教導く
ださるこの「全く新しい信仰」を、真っ白な気持ちになって謙虚にお受けすること
なくして、本当に明主様を知ることにはならないのではないかと、本当の世界救
世教の信仰に辿り着けないのではないかという覚悟をもって、①之光教団の皆さ
まとご一緒に進ませていただきたいと存じます。

さらに、「まえがき」には次のように記されています。

そして、明主様が、本教を「世界救世教」として開教宣言をされたことを、
私共は重く受け止めさせていただかなければならないと存じます。

明主様は、

『どうしても一大飛躍によって全人類を救わなければならない、とすれば世
界的に拡充する必要がある、世界救世教の名による所以である』

(開教の辞 世界救世教の誕生について 昭和25年2月4日)

と、言明されています。そして、「メシア教」開教後、明主様は、「メシアの救
い」「メシアの力」「メシアの教え」等々「メシア」について繰り返しみ教えに
なっておられます。明主様が「メシア」について繰り返し言及されたというこ
とは、「全世界を救う」「全人類を救う」という明主様のみ教えとみ心に深く深
く関わっているのではないのでしょうか。ですから、明主様は「世界救世教」の

「教主」として世にお出ましになり、「メシヤ降誕」を宣明されたのではないのでしょうか。

また、明主様が世界宗教であるキリスト教との関わりについて述べておられるということも、「メシア」と関わっていることであり、「メシア」にある救いを全世界に伝えるとのお心によるものと拝察されます。

このように、「まえがき」には記されています。

明主様がご在世中の最後にお示しになられた教団は、「世界救世教」です。私共は、明主様が「世界救世教」を開教されたことのご神意についても、「メシヤ降誕」「新しく生まれる」とのみ教えとご事蹟についても、さらには、明主様がお示しになられた「メシアの救い」「メシアの力」「メシアの教え」ということについても、教団としてその真意を究めることなく今日に至ったのではないのでしょうか。

明主様が、「メシアの御名」を大切にされ、「メシアの御名」にある赦しと救いを全世界に伝えようとされたことは、間違いのない事実であると存じます。

私は、この「天国の福音」を、まず自らが全身に受け止め、そして、宣べ伝えることが、明主様から私共世界救世教信徒に託された大切な使命であると信じています。

そのためにも、『世界人類の救済からゆくと、メシヤ教は余程キリスト教に近くなる。何れはそうなるべきだが、漸く時期が来たのである』という明主様の御言葉、『わが新教（世界救世教）はこのキリスト教と呼応し』という御言葉、さらには、『メシヤとはキリスト教と深い関連がある』との御言葉を始めとして、明主様は、世界的宗教であるキリスト教とその教えを重大に見ておられたことを、私共は受け止めさせていただくことが大切ではないのでしょうか。

私共専従者、信徒は、教主様のお姿とお言葉に倣い、今日まで自分なりに受け止めてきたみ教えや浄霊を、感謝をもって明主様を通して主神にお返し申し上げ、もう一度、新しくいただき直す必要があると思います。

今、教主様のお言葉に対して、教主様のおっしゃることはみ教えと違う異説であるとか、教主様が世界救世教をキリスト教化しようとしているなどと主張している方々がいるようですが、果たしてそうでしょうか。

私共は、明主様に対して、“ご在世中にお示しくださったことを最後の所まで全てをお受けさせていただきたいのです、”という思いで求めさせていただくならば、教主様が明主様のみ教えの神髄をお取り次ぎくださっているものと、一点の疑いもなく受け止めさせていただけると存じます。

そして、「教団方針」の「まえがき」は、次のように締めくくられています。

今、私共一人ひとりは、明主様を模範とさせていただいて、神様の子として「新しく生まれる」という「明主様の全く新しい救いの福音」をいただいています。その信仰の営みとして、今、全てを主神に帰させていただく「想念の御用」を大切な信仰実践として取り組ませていただいています。その中心に、「光のお言葉」「誓いの言葉」「祈りの言葉」をいただいています。

「会う、聞く、浄霊」の実践も、参拝・奉仕も、感謝の慰霊も、主神に全てを帰させていただく「想念の御用」にお使いいただくための大切な取り組みであります。換言すれば、全ての御用の中心に「想念の御用」があると申せましょう。

私共は、今までの経験、またその経験の上に築いてきた観念や思想——そこから物事を見たり、考えたりする習慣に縛られていたことに今気づかせていただいています。私共の本当の出発点はどこか——それは、始まりの天国です。そのことを基準にするならば、今自分の思いのあるところだけが、自分の全てではありません。私共には、本来の立ち位置が、ハッキリとあります。

教主様は、このことを繰り返し確認してくださっています。私共の教団方針は、こうした教主様のお言葉・ご教導を抜きにしてあり得ません。

明主様は、まさしく今、教主様を通して私共をまっすぐに導いてくださっている——そのように心に決めさせていただいて、力強く進んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

なお、「教団方針」には、その願いとするとところをより一層受け止めさせていただくために、メシアあるいはキリストに関する明主様のお歌やみ教え、そして、教主様のお言葉、教主補佐のお話をサブ資料として添えております。

①之光教団の私共が歩ませていただく大切な道筋が示されたものとして、布教区長、布教所長と共に学び合いを重ね、進んでいただきたいと存じます。

真の主神の子たるメシアとして新しくお生まれになられた明主様の真実、本当の救いが、教団浄化を経て、今初めて、教主様によって知らされ、私共は、人類に先駆けて「全く新しい信仰」である“神の子たるメシアの道”を歩ませていただいております。

私は、私共が人類の先駆けの一人としてこの道を進むことによって、「世界救世教のキリスト教化」などという偏見と独断によるちっぽけな話ではなく、主神が顕されたあらゆる宗教を包含した万教帰一の世界が生まれ、全人類がメシアであられる明主様を模範として、神様の子供たるメシアとして「新しく生まれる」

という大きなみ恵みを賜ることになると固く信じております。

私共は、神様が、この「全く新しい信仰」を認める人も認めることができない人も、一つとしてお使いになって養い育ててくださっていることを大切に受け止めさせていただきたいと思ひます。

その上で、私共は、志を同じくする全ての人と共に、この「神の子たるメシアの道」を全身全霊にお受けし、この本当の福音を一人でも多くの方にお伝えする「全く新しい布教」に、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」という「想念の御用」をもって、流言飛語や誹謗中傷に心奪われることなく、嬉々としてお仕えさせていただきましょう。

話は変わりますが、本日私共は、「月次祭」に併せて「新穀感謝祭」を執り行わせていただきました。

今年は、大きな台風が続けて上陸するなど、農家の皆さまに取りましてもご苦労の多い年だったと思ひますが、神様のお計らいのもと、自然農法・自然食の救いにお使いいただきましたことを、本日のみ祭りにおいて、神様に感謝をもってご奉告させていただきました。

今年も、自然農法産の作物やさまざまな紹介パネルが展示されています。

私も、自然農法・自然食の救いに真心をもって取り組まれた全国の皆さまに思いをはせ、感謝をもって拝見致しました。

私共は、毎年「新穀感謝祭」を通して、命の糧をお与えくださる神様への感謝を心に刻ませていただきますが、私は、教主様のご教導を繰り返しいただく中、命そのものについての認識を全く新しくさせていただきました。

明主様は、

「村肝の尊き命は畏くも神の御手にありと知れかし」

「魂機張る命の主は己にあらで神の御手にあるを知れかし」

などのお歌を通して、命は神様のものであることを私共に「知れかし」とみ教えくださっています。

私は、教主様のご教導にあずかるまでは、このみ教えを十分に受け止めていなかったと思ひます。私は、このお歌を知りながら、それでも命を自分のものとしてきた姿を認めざるを得ません。

私は今、命を自分のものとしてきたことを認め、悔い改めさせていただくとともに、そのことを赦してくださり、天国に迎え入れてくださる神様の愛と赦しに、少しでも心向けさせていただかなければと思ひております。

ですから、私は、本日の「新穀感謝祭」に臨むに際して、神様に対して命の糧をお与えくださったことへの感謝を捧げるとともに、「命は、そして、万物全て

は神様のものであることに目覚めさせていただきました。お赦してください、と、このようにご奉告申し上げることを忘れないようにしなければと思わせていただきました。

終わりに、まもなく23日には、明主様の「御生誕祭」をお迎え致します。

全国の皆さまと共に、「御生誕祭特別献金」に精いっぱい真心を込めてご参拝に臨ませていただき、人類最大の福音である“神の子たるメシアの道”をお示しくくださった明主様のご生誕を心からお祝い申し上げ、併せて、新たな年への祈りを捧げさせていただきますよう。

本日も、こうして一緒に、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、今月度の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。